

単元案の概要

単元名：日本語で小説を読む					
	日本語IV	作成日	2016年8月16日	作成者	森川結花
学年／年次		クラス人数	10人前後	使用教材	吉本ばなな「ムーンライトシャドウ」
話題分野	自分と身近な人々、学校生活、日常生活、食、衣、からだ、趣味、買い物、人とのつきあい、行事、地域社会、自然、ことば	言語レベル	レベル3～4	必要時間数	30時間（3週間）
単元目標					
(1)日本語で一編の小説を読み通すことができる(初めての経験) (2)小説を読むことで、作者についての情報、小説の舞台となっている日本の時代背景、日本の伝統的な習慣や衣食住などの文化的な情報、宗教観(死生観)などの知識を得て、同様の知識を持った他者と知的な会話ができる。 (3)読書会に向けての準備を通して、日本的社交スキルを使って教室外の社会とつながることができる。 (4)学習の総括として、文学論的小論文かスピノフ小説を書くことができる。					
コミュニケーション能力指標					
自4-a.登場人物の生い立ちや思い出について、文章にまとめ書くことができる 自4-b.ライフストーリーや手記を読んで概要を理解できる 自4-c.家族について書かれた文章を読んで、家族のあり方について意見交換ができる 自4-d.友達づきあいについて書かれた文章を読んで、自分の国のやり方と比較することができる 学4-c.日本の学校(学生)生活の特徴や教育制度についての説明を聞いたり読んだりして、日本と比較しながら意見交換できる 日4-a.困っていること、悩んでいること、不満に思っていることなどを打ち明けたり聞いてあげたりする文章を読むことができる 日4-b.日常生活で起きたハプニングやハプニングや失敗談についての文章を読み、自分の似たような経験を披露することができる 日4-c.いろいろな人のライフスタイルについての文章を読んで、そこから感じたことを話し合うことができる 食4-b.現代の日本の若者の食生活について読み、それについて自分の国との比較をし、話し合うことができる 衣4-a.服装のTPOについて、ある程度まとまった文章を読んだり話したりできる 衣4-b.自分のファッションに対するこだわりについて話し合うことができる 衣4-d.さまざまな制服について調べ、その機能や意味について意見交換できる か4-a.健康や保健に関する文章を読んで、発見したことや自分の考えを話すことができる か4-c.日本と自分の国の伝統的な健康維持法や病気の治療法について調べ、それぞれの特徴について話し合うことができる か4-d.からだの部位を使った日本語の表現と自分の母語の表現を比較し、それぞれの考え方について話し合うことができる 趣4-a.映画や小説のあらすじや、イベントの見どころを、口頭で説明できる 趣4-c.日本と自分の国の余暇の過ごし方について読んだり考えたりし、話し合うことができる 人4-a.日本の通信手段として、まだ携帯電話やインターネットがなかった時代の状況について書かれた文章を読み、現代との相違点や類似点について話し合うことができる。 人4-c.日本社会の人間関係の中で日本人が大事にしていることについて考えたり、自分の国と比較したり、それについて話し合ったりすることができる 人4-d.日本の贈答習慣について文章の中から読み取ったり調べたりして、その特徴について話し合ったり文章にまとめたりすることができる 行4-a.日本の行事(特に人の死に関する行事)について調べ、自分の国のそれと比較して相違点・類似点をまとめ、それについての自分の考えを述べたり文章に書いたりすることができる 環4-d.自然環境や四季の様子についての文章を読み、その特徴を理解し、自分の国のそれと比較することができる こ4-a.辞書にのっていないことば(新語や俗語など)についてインターネットで調べ、意味を理解できる こ4-b.日本語の特徴と母語とを比較して、口頭または文章で説明することができる こ4-c.日本語と母語とを比較し、表現は似ているが意味が違う、または表現は違うが意味は似ていることばについて、口頭で説明することができる こ4-d.日本で話されている言語(方言、若者ことば、俗なことば)について調べ、その内容をレポートにまとめたり口頭で発表したりすることができる こ4-i.時代によってことばが変化していくこと(現代の若者ことば、メールに使われる話し言葉と書き言葉の中間言語など)について意見交換できる					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
<場面状況> 年間プログラムの留学生。非漢字文化圏欧米系学生が中心で10人前後のクラスサイズ。中級教科書(例:『J501』)を学び終え、日本語能力はクラス標準でN3～N2の手前辺りまで来ていると期待される。教科書の本文で小説、エッセイ、論説文を読んできたが、まだ本物の日本語の「本」一冊、または小説を作品の最初から最後まで通して読んだことはない。従って、この学習活動が学生達にとって「初めての日本語小説読了体験」となる。小説を「読み」、小説について他者と「語り」、そして小説について自分の作品を「書く」ことを目指す。					
<活動の流れ> (1)授業を始める一週間前に教材を配布し、自分なりに通読してくるよう指示する。教材は原著と英語訳、副教材冊子(自分で作る単語リスト、文型・表現ノート、文型練習問題など)である。自分で予習として読む時には英語版を必要に応じて「ナビ」として使ってもいいことにする。とにかく通読して全体のストーリーを把握してきてもらう。 (2)第1回目の授業では、①作者の吉本ばななについて、②作品の舞台となった「昭和」という時代、③「東京」という地域の特徴についてインターネットを使ったり、日本人にインタビューをしたりなどして調べてきた結果を発表する。 (3)作品を12章にわけ、第2回目から第13回目の授業まで、一日につき一章ずつ授業で読み進めていく。授業の手順は、①該当箇所の音読クイズ、②文脈理解のチェック、③各章のポイントについての話し合い(グループディスカッションと発表)、④まとめ、⑤文型・表現・語句についての知識と練習である。 (4)第5回目の授業日に、読書会についてはゲストスピーカーへの招待状メールの書き方を学習し、手分けして出させておく。 (5)12日間かけて読み終えた後、14日めは各自のレポートないしスピノフ小説の構想についての発表と、読書会の準備(読書会での役割分担決めや司会進行役、質問などの言い方の練習)をする。 (6)15日目はゲストスピーカーを招いての読書会をし、この学習の最終授業とする。 (7)レポート／創作はその後2週間の猶予を与えて提出させる。					
形成的評価			総括的評価		
・音読クイズ ・表現・語句の宿題の出来映え ・授業のParticipation ・日々の授業後の感想と自己評価 ・読書会後の感想			レポート(文学論またはスピノフ小説の創作)		

3 × 3 + 3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> • 作品を読んで、ストーリーラインが理解できる • 日常的で何気ない動作を表す語句・表現を知る • キャラクターの話し方に、男女差や性格の特徴が現れていることが理解できる • 色彩、風景や人の外見、また身体感覚、心情などを表す日本語独特の繊細な表現の意味するところがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の伝統的な習慣（喪、お見舞いなど）の典型を知り、この作品でのそれと比べる • 日本人の宗教観、死生観、日本における「死後の世界」のイメージを知り、自分の国のそれと比べる • キャラクターの名前から、日本の人名には「意味」が込められていることに気づき、自分の国の命名法と比べる 	<ul style="list-style-type: none"> • 吉本ばななが日本／世界中で、どのように受け入れられているかを知る
できる	<ul style="list-style-type: none"> • 一編の小説作品を読了する • 日本語と自分の母国語の表現との違いを見だし、それについて説明することができる • 表記の違いが一種のコードであることに気づき、そこに込められた意味が推測できる • フォーマルな話し合いの中で適切な敬語表現を使って発言できる • 適切な敬語表現と形式にのっとり、フォーマルな手紙が書ける • 自分の作品（レポート／スピンオフ小説が書ける） 	<ul style="list-style-type: none"> • スピンオフ小説を書く場合、自分の小説でのキャラクターにも名付けやししゃべり方で性格が表れるように工夫する • 日本でふさわしい哀悼の意の表し方や、他人を励ます時の言葉などが使えるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> • インターネットを使って、吉本ばななに関する情報を集めたり、小説の時代背景などを調べたりすることができる • 日本人・外国人ゲスト（一般人、教員などの専門家、学生）を迎えての読書会を準備・運営するにあたり、自分の役割を、責任をもって果たすことができる • レポート／スピンオフ小説をまとめた「文集」またはホームページを作成するために、役割を分担して編集や印刷（注文）などをする。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> • グループディスカッション、ゲストを囲んでの読書会、ホストファミリー、日本人の友人などと小説の感想を共有する • 自分の作品を他者に読んでもらってコメントをもらう 		<ul style="list-style-type: none"> • 「文集」を関係者に送付したりホームページを公開することで、広く社会に意見を交換できる人を募り、繋がる事が出来る
三連携	<p>【学習者】：今後の読書活動への自信 【教室外】：学生が住むコミュニティの中で「よしもとばなな」を話題にして人（ホストファミリー、日本人の友達、クラスメート、先生、同じ趣味を持つ日本人や外国人とつながる。インターネット上でもつながりが出来る。 【他教科】：宗教学、民俗学、日本文学史、ITスキル</p>		

目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	
(予習)分からない漢字や語句を調べながら音読練習	作品を読み通す	自分なりの読後感を得て、それに基づいてレポートを作成するか、またはスピンオフ小説を書いて読書で得たものに形を与えて残すことができる	本物の小説を読んで、個の世界の趣味である読書活動を世界の人と語り合いつながりとなる活動へと広げよう	
【形成的評価】音読クイズ				
キャラクターの名前に込められた意味を考える	作品を深く読み込み、文化的なコードを読み解く			
ひらがな・カタカナ・漢字表記の意味を考える	日本語独特の言語表現を理解する			
風景、色彩、心情などを表す日本語独特の繊細な表現	日常的な語彙や表現を理解する			
何気ない動作や生活語彙、病気の表現	【形成的評価】語彙・表現に関する宿題			
男女差、年齢差の違いが出ている箇所を探す	キャラクターに特有の表現を見分けることができる			
日本人の宗教観、死生観の表れている箇所を探す	自分なりに作品のテーマを捉え、それを説明することができる	クラスで協力して読書会を開き、外部ゲストを囲んで読後感を語り合うことができる		
キャラクターの優しさが表れている行為を探す	読後感や意見などを他者と交換し共有する			
悲しみの中にもユーモアを感じさせる箇所を探す				
授業でグループディスカッションをしてクラスメートと意見や感想を交換する	ゲストを囲んでの読書会の準備と運営をする			
ホストファミリーや日本人の友人と作品や作者について話す				
【形成的評価】授業後にコメントシートを書いて提出(自己評価を含む)				
英訳版と原著で違う表現や印象になっているところを探す	作品を原著で読むことの価値を認識する	一連の活動を振り返り、達成感と自信を得て、次の読書活動につなげることができる		
作者のインタビュー動画を見て、作品ができた背景を知る				
日本内外の吉本ばななファンの声をインターネット上で探す	自分の日本語力で知的な話題を他者と共有できるようになったことを認識する			
【総括的評価】レポート(文学論的小論文)かスピンオフ小説を書く				

総括的評価のルーブリック

課題：吉本ばなな「ムーンライト・シャドウ」を読む授業を通して考えたことからテーマを決め、自由に論述しなさい。テーマは下のA～Dから選んでもかまいません。または、論述レポートの代わりにスピンオフ小説を書いてもいいです。論述レポート／小説、どちらも分量は800字から1200字程度書くこと。

1) 論述レポートのルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
分量	900字以上書けた。	800字～850字程度の論述ができた。	600～700字台まで書けたが、800字には及ばなかった。	400字程度かそれ以下しか書けなかった
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・段落分けが適切にできている。 ・序論、本論、結論の三つの部分があり、それらが全体の中でバランスよく構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落分けが適切にできている。 ・全体が序論、本論、結論の三つの部分で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落分けはしてあるが、長すぎたり短すぎたりする。 ・序論、本論、結論のある一部分を欠き、三部構成になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落分けをしていない。 ・序論、本論、結論の区別がない。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークで斬新で、他の人の関心を惹きつけるような意見を述べている。 ・自分の意見をサポートする分析や根拠を示していて、その分析や根拠もまたユニークな発見である 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が考えたオリジナリティーのある意見を述べている。 ・自分の意見をサポートする分析や根拠を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を述べてはいるが、オリジナリティーが薄いように感じられる。 ・自分勝手な意見を述べていて、それをサポートする分析や根拠をはっきり示していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を述べておらず、授業で聞いたとおりのことや、どこかで見聞きしたことを書いているだけである。
正確さ	<ul style="list-style-type: none"> ・文末が完全に「だ・である体」で統一されている。 ・文型・語彙の使い方の間違いがほとんどない。 ・書き言葉的な文型・語彙(抽象的な漢語など)がよく使えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末が基本的に「だ・である体」で統一されている。 ・文型・語彙の間違いが少ない。 ・書き言葉的な文型・語彙を使おうとする努力が認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末に「です・ます体」と「だ・である体」が混ざる。 ・文型・語彙の間違いがやや多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末が「です・ます体」になっている。 ・文型・語彙の間違いが非常に多く、全体として意味が分かりにくい。

2) 創作スピノフ小説のルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
分量	900字から 1200 字の小説が書けた。	800字～850 字程度の小説が書けた。	600～700字台まで書けたが、800字には及ばなかった。	400 字程度かそれ以下しか書けなかった
構成	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが、何をどうしたか(5W1H)の設定がある。 ストーリーの展開に起承転結がある。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが、何をどうしたか(5W1H)の設定がある。 ストーリーの進行がおおむね時間の流れに沿っている。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが、何をどうしたか(5W1H)の一部がはっきりしない。 ストーリーの進行にわかりにくいところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが、何をどうしたか(5W1H)の設定の仕方がまったく不十分である。 自然な流れのストーリーになっていない。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 読者に訴えたいテーマがあり、その内容が深い。 筋立てがユニークで、読者を惹きつけるものがある。 生き生きとした会話、情景、心情の描写がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読者に訴えたいテーマがある 筋立てにオリジナリティーがある。 会話文と地の文があって、登場人物の内面がわかる描写もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読者に訴えたいテーマはあるが分かりにくい、あるいは、テーマとしての深みに欠ける。 筋立てのオリジナリティーが弱い(どこかで聞いたような話になっている) 会話文を効果的に使えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 読者に訴えたいテーマがない。 筋立てが完全に他のものからのコピーである。
正確さ	<ul style="list-style-type: none"> 文型、語彙の間違いがほとんどない。 普通体、丁寧体の使い分けが適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文型、語彙の間違いが少ない。 普通体、丁寧体の使い分けがだいたい適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文型、語彙の間違いがやや多く、意味のわかりにくい文章になっている。 普通体、丁寧体の使い分けが不適切であるところが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 文型、語彙、間違いが非常に多く、意味不明な文章になっている。 普通体か丁寧体のどちらかがまったく使えていない。